

## 第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	3-①	課名	まちづくり課
------	-----	----	--------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	多角的な若者視点による活力創生		
戦略事業名	①おい若者まちづくり塾開催事業		
予算事業名	おい若者まちづくり塾開催事業		
令和4年度実績額	2,485,660円	令和5年度予算額(6月補正後)	2,652,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業の概要(実績)	<p>まちづくりに興味のある住民を募り、テーマごとに議論を重ねることで、まちづくりについての意識を深めるとともに時代を担うリーダー意識を醸成する。</p> <p>「おいまちづくり塾」を2回開催                      【第1回】参加9名                      講師：田中志敬氏(福井大学)                      タイトル：まちづくりをはじめするための集落課題チェック</p> <p>【第2回】参加12名                      講師：江川誠一氏(福井大学)                      タイトル：身近な地域資源を活かしたまちづくりの進め方</p>	<p>潜在的にまちづくりに興味のある人材を発掘するため、「まちづくり塾講演会」の開催を企画。                      ※新型コロナウイルス感染症の拡大により募集途中で中止(26名申込)</p> <p>⇒講演会の申込者や未来仕掛け人OBの紹介者により未来仕掛け人2期生(仮称)を設立 ※現在10名のメンバーが在籍</p> <p>《メンバーの活動》                      ・仕掛け人OBとの意見交換会                      ・高濱明日研究所とのオンライン交流会                      ・メンバー会議 2回</p>	<p>令和3年度から事業に参加しているメンバーでの本格的な活動を開始し、会議やワークショップを重ね、メンバーが主体となり企画・運営を行った2回のイベントの開催を支援した。</p> <p>○ハロウィンフェスティバル                      期日：令和4年10月29日(土)                      場所：SEE SEA PARK                      参加者数：約250人</p> <p>○おい町eスポーツ大会                      期日：令和5年2月19日(日)                      場所：SEE SEA PARK                      参加者数：約50人</p>
		令和5年度(予定)	令和6年度
		令和4年度に引き続き、現在の参加メンバーを中心に、地域の活性化や課題解決を目的とした取り組みの企画・実施を支援していく。	/
		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>10/29 ハロウィンフェスティバル</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>2/19 eスポーツ大会</p> </div> </div>	

### 評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	参加者数		⇒	現 状		KPI達成率(%)
	基準値 (平成30年度)	累計472人		令和4年度末	累計721人	90.1%
	目標値 (令和6年度末)	累計800人				

#### ① 数値目標達成状況 おおむね達成

達成状況の要因分析	KPIについて、おい町未来仕掛け人会議や、若者まちづくり塾に関連したワークショップやイベントの開催を通じて、まちづくりに関わった住民の人数を増やしてきたことから、目標値を概ね達成している状況である。
目標を見直す場合の考え方	—

## ② 事業成果

平成27年から令和元年度にかけて若者ワークショップや未来仕掛け人会議、部会、まちづくり塾を実施し、延べ数598人のまちづくりに意欲のある町民が参加した。また、未来仕掛け人のメンバーは、今まで培ってきたノウハウを活かし、参加者が1,000人規模となったおおいCraftGardenのように、自主財源のみでイベントを企画・運営する団体へと成長し、関係人口の創出と町の活性化に寄与している。

また、令和2年度以降はまちづくり講演会等の開催により、潜在的にまちづくりに対して興味をもつ人材を発掘し、新たなプレーヤーたちによるまちづくり活動への参加に繋げることができている。

## ③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

今後は、令和3年度からまちづくり塾に参加しているメンバーを中心に、地域の若者たちが中心となった取り組みの実現を支援していくことで、住民参加型の主体的なまちづくり活動の意欲向上を図るとともに、取り組みをすすめていくなかで、既存のメンバーだけでなく、活動に興味をもった若者を事業に巻き込んでいき、関係人口の増加を図る。

## ④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

- ・令和元年までのおおい町未来仕掛け人会議や、令和2年度からのまちづくり塾の活動を通じて、まちづくりに関わった住民の数は着実に増えており、KPIの達成に向けて順調
- ・今後は、新たなメンバーの発掘とともに、おおいCraftGardenが自主財源のみでイベントを企画・運営する団体へと成長したように、事業参加メンバーに自主的・主体的に活動を行ってもらうことが重要

## 外部評価の結果

意見等なし

## 第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	3-②	課 名	まちづくり課
------	-----	-----	--------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	多角的な若者視点による活力創生		
戦略事業名	②まちづくり政策コンテスト開催事業		
予算事業名	官学連携事業		
令和4年度実績額	5,535,363円	令和5年度予算額(6月補正後)	6,230,000円

事業の概要 (実績)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	<p>学生の目線や感性等により、地域の課題や地域資源を発見し、まちづくりのアイデアを提案・実行してもらおう。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大等の社会情勢を考慮し、令和2年度は中止とした。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対策のため、リモートを基本に実施し、県内や関西の5大学7チームから提言が発表された。</p> <p>発表された政策提言の中で、令和3年度に事業化に至ったものはないが、施策への活用検討を継続していく。</p>	<p>県外8大学から10チーム71名が参加。3年ぶりに学生がおおい町内でフィールドワークを行い、各チームから10の政策が提案された。</p> <p>発表会で優秀と審査された4チームが、令和5年度に町内で政策を実行する。</p>
	令和5年度(予定)	令和6年度	
	<p>4チームが令和4年度に提案した政策を実施予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●京都府立大学 ドローン体験イベントの開催（スマートシティの実現）</li> <li>●龍谷大学 間伐材DIYワークショップの開催（地域資源の循環）</li> <li>●近畿大学 自然の中でのテントサウナ体験イベント（若者集客）</li> <li>●びわこ学院大学 フォトコンテストやSNSを通じた魅力発信（若者集客）</li> </ul>	/	



### 評 価 (Check)

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	政策提案数	⇒	現 状		KPI達成率 (%)	
	基準値 (平成30年度)		累計26件	令和4年度末	累計51件	72.9%
	目標値 (令和6年度末)		累計70件			

① 数値目標達成状況	おおむね達成
達成状況の要因分析	令和4年度は10チームが参加し、平成28年度にコンテストを開催してから最多となった。今回から、コンテストで優秀と審査されたチームは翌年度に提案した政策を学生自ら実行する形に変更したが、それが学生や指導教員の方に好意的に受け止められたとみている。
目標を見直す場合の考え方	-

## ② 事業成果

平成28年度から6回のコンテストを開催し、参加した学生は延べ約340名となっており、未来創生戦略にもとづいた町づくりを進める本町の取り組みを広く町内外にPRする機会となっている。  
また、学生、町内住民グループ合わせて51件の政策提言が集まり、その中から7件が事業化につながっているとともに、令和4年度の提案を令和5年度に実行することにより、交流人口の拡大に繋がっている。

## ③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

事業化の成果については、広報誌やHPなどの媒体を活用して周知していく。  
学生がコンテストの中で行うフィールドワークや政策の実行といった活動を、交流人口や関係人口の拡大に繋げていく。

## ④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

令和4年度は過去最多の10チームの参加があり、注目度が高い施策と考えられる。令和5年度は昨年度参加した4チームの学生が自分たちの政策を実行することになっており、町としても今後の政策立案の参考にするとともに、学生や大学との繋がりを通じて交流人口の拡大を図っていくことが重要

## 外部評価の結果

(委員) 学生から出してもらったアイデアについて、その後のフォローが見えない。どうしているのか。  
⇒ミツバチを使った養蜂などは実際に町が事業化してきた。しかし、アイデアを毎回町が予算を組んで事業化していくのはハードルが高いことから、昨年度からやり方を変えて、町が事業としてやるのではなく、学生自身に自分たちのアイデアを町内で実践してもらうようにした。学生自身が実践するようにしたことにより、コンテストがやりっぱなしになることはないと考えている。  
(委員) お金をかけてコンテストをやっても、学生が町内で遊んで帰るだけではないかという意見を町民から聞くことがある。だから広報は大切。町がお金をかけているのにその結果が全然見えてこなかったら町民が誤解するので、学生のアイデアがこんな風に形になったというようなことをもっと発信していくべきだと思う。

## 第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

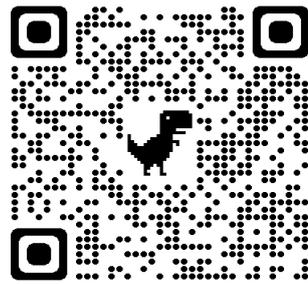
整理番号	3-③	課 名	まちづくり課
------	-----	-----	--------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	多角的な若者視点による活力創生		
戦略事業名	③地域おこし協力隊支援事業		
予算事業名	地域おこし協力隊募集・管理事業		
令和4年度実績額	553,300円	令和5年度予算額(6月補正後)	890,000円

事業の概要(実績)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	<p>平成27年度から地域おこし協力隊を募集・受け入れており、人口減少及び高齢化等が進行する本町において、町外の人材を積極的に取り込み、地域の活性化および定着・定住につなげる。協力隊募集イベントへの参加等を通して着任を募り、定住した隊員には報奨金を支給。</p> <p>令和2年度中に1名が新たに着任。1名が年度末に退任し、本町に定住した。</p> <p>【令和2年度末時点】 活動中隊員: 2名 延べ着任者: 10名 延べ退任者: 8名(うち定住者3名)</p>	<p>年度当初の活動隊員は2名。1名が年度末に期間満了で退任し、本町に定住した。年度末に新規隊員の募集を開始した。</p> <p>【令和3年度末時点】 活動中隊員: 1名 延べ着任者: 10名 延べ退任者: 9名(うち定住者4名)</p>	<p>年度当初の活動隊員は1名。当該1名が年度末に期間満了で退任し、本町に定住した。</p> <p>昨年度に引き続き新規隊員を募集。HPや募集専用サイト、イベント等で周知を図り、令和4年度中に1名が新たに着任した。</p> <p>【令和4年度末時点】 活動中隊員: 1名 延べ着任者: 11名 延べ退任者: 10名(うち定住者5名)</p>
	令和5年度(予定)	令和6年度	
	<p>令和5年4月1日付けで新たに1名が着任し、2名の隊員が活動中。</p> <p>1名は観光情報の発信等に従事。もう1名はまちづくり政策コンテスト等に関する業務や、SNS等を活用して町の情報発信を行う。</p>	/	



(画像等貼付)



協力隊のインスタグラム  
@ohi\_kurashi(おい暮らし)

### 評 価 (Check)

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	協力隊退任後の定住人数		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	累計0人		令和4年度末	累計5人	
	目標値 (令和6年度末)	累計6人				

#### ① 数値目標達成状況 おおむね達成

達成状況の要因分析	<p>平成27年度から11名の地域おこし協力隊員が着任し、うち5名の定住につながっている。一方、本人の希望と実際の業務とのミスマッチ、家庭の事業、自己の都合等の理由で5名が定着せずに退任している。</p> <p>新たに隊員を募集する場合は、採用条件や活動内容をできる限り詳細に明示し、採用後のミスマッチがおこらないように努めている他、定期的に面談して活動状況を共有し、隊員が職場や地域で孤立しないように努めている。</p>
目標を見直す場合の考え方	—

② 事業成果

平成27年度から延べ11名の地域おこし協力隊員を受け入れており、実際の業務とのミスマッチ、家庭の事情、自己の都合等の理由で、任期途中で退任された方がいるものの、令和4年度末時点で5名の方の定着につながっている。引き続き人材の確保を図り、地域の活性化につながるよう努める。

③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

本人の希望と業務内容にミスマッチがおこらないように努めている他、隊員が職場や地域で孤立しないように努めている。引き続き活動しやすい環境を整えることにより、隊員の定着・定住に繋げていく。

④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

現在活動中の隊員2名については任期が令和8年までとなっているため、本事業のKPI(協力隊退任後の定住人数)は累計5人で確定したが、令和2年度から令和4年度まで毎年度、任期満了した隊員が定着し続けており、隊員が活動しやすい環境を整えている効果が出ている。

外部評価の結果

意見等なし

## 第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	3-④	課 名	まちづくり課
------	-----	-----	--------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	本町の特性を活かした体験・交流の充実		
戦略事業名	④ふるさと体験事業		
予算事業名	移住・定住・交流推進事業(ふるさと体験事業)		
令和4年度実績額	0円	令和5年度予算額(6月補正後)	500,000円

事業の概要(実績)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	<p>おい町に関心を持つ町外の方(おいサポーターの登録者)が本町で行う以下の活動に伴う交通費相当額を補助</p> <p>①町内で住居を兼ねた仕事場を探し ②町が指定するイベントのボランティア運営スタッフとしての活動 ③おい町一次産業体験事業への参加 ④包括連携協定を締結している大学の学生が行う、町民との交流を伴う活動</p> <p style="text-align: right;">令和2年度実績 5件/18名</p>	<p>おい町に関心を持つ町外の方(おいサポーターの登録者)が本町で行う以下の活動に伴う交通費相当額を補助</p> <p>①町内で住居を兼ねた仕事場を探し ②町が指定するイベントのボランティア運営スタッフとしての活動 ③おい町一次産業体験事業への参加 ④包括連携協定を締結している大学の学生が行う、町民との交流を伴う活動</p> <p style="text-align: right;">令和3年度実績 2件/9名</p>	<p>おい町に関心を持つ町外の方(おいサポーターの登録者)が本町で行う以下の活動に伴う交通費相当額を補助</p> <p>①町内で住居を兼ねた仕事場を探し ②町が指定するイベントのボランティア運営スタッフとしての活動 ③おい町一次産業体験事業への参加 ④包括連携協定を締結している大学の学生が行う、町民との交流を伴う活動</p> <p style="text-align: right;">令和4年度実績 なし</p>	
	令和5年度(予定)		令和6年度	
	<p>おい町に関心を持つ町外の方(おいサポーターの登録者)が本町で行う以下の活動に伴う交通費相当額を補助する</p> <p>①町内で住居を兼ねた仕事場を探し ②町が指定するイベントのボランティア運営スタッフとしての活動 ③おい町一次産業体験事業への参加 ④包括連携協定を締結している大学の学生が行う、町民との交流を伴う活動</p>			
	<p>おい町未来創生戦略ポスター: おおいサポーター募集 魅力発信</p> <p>活動内容: 魅力・体験活動の開催支援、おおい町産品PR活動、おおい町産品PR活動、おおい町産品PR活動、おおい町産品PR活動</p> <p>登録対象: 町外に在住する方(中学生、高校生、大学生、社会人)</p>			

### 評 価 (Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	おい町サポーター登録者数		⇒	現 状		KPI達成率(%)
	基準値 (平成30年度)	—		令和4年度末	110人	36.7%
	目標値 (令和6年度末)	300人				

① 数値目標達成状況 現状では達成が難しい

達成状況の要因分析	新型コロナウイルス感染症の拡大を機に一次産業体験活動等が途絶えており、サポーター登録を呼びかける機会が減少していることから、目標の達成が厳しい状況である。
目標を見直す場合の考え方	—

② 事業成果

令和4年度において、ふるさと体験事業としての実績はなかったものの、まちづくりアイデアコンテストに参加した県外大学生や移住支援関連制度の利用者を中心に、31名の新規サポーター登録を獲得した。

③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

当事業については、関西圏の学生のフィールドワークや研究活動での利用も多く、おい町を知らない都市部の若年層へのPR効果が期待できる。  
今後、おい町の情報を積極的に登録者に発信していくことにより、移住や関係人口の増加に繋がっていくことが期待できるため、当制度の利用者だけでなく、おい町と連携した取り組みを行っている大学等に、来町および制度の積極的な活用をPRしていく。

④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

業務等で関わりを持った町外の方に対して積極的にサポーター制度をPRし、多くの方にサポーターになっていただくことにより、移住や関係人口の増加に繋がっていくことが重要

外部評価の結果

意見等なし

## 第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

<b>整理番号</b>	3-⑤	<b>課名</b>	農林水産課
-------------	-----	-----------	-------

<b>戦略分類</b>	3. 若者活力		
<b>取組の方向</b>	本町の特性を活かした体験・交流の充実		
<b>戦略事業名</b>	⑤一次産業体験事業		
<b>予算事業名</b>	一次産業スタート支援事業		
<b>令和4年度実績額</b>	4,034,449円	<b>令和5年度予算額(6月補正後)</b>	5,029,000円

事業の概要 (実績)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	【一次産業活動拠点施設活用】 町内で一次産業の体験をする際の活動拠点施設「志摩豊夢」の周知を実施 施設利用人数: 延べ 46人  【一次産業体験事業】 町内での一次産業体験を希望する方に、ニーズに合致した受入先を調整 一次産業受入人数: 5人(7日間)	【一次産業活動拠点施設活用】 町内で一次産業の体験をする際の活動拠点施設「志摩豊夢」の周知を実施 施設利用人数: 延べ 49人  【一次産業体験事業】 町内での一次産業体験を希望する方に、ニーズに合致した受入先を調整 一次産業受入人数: 0人(0日間)	【一次産業活動拠点施設活用】 町内で一次産業の体験をする際の活動拠点施設「志摩豊夢」の周知を実施 施設利用人数: 延べ 46人  【一次産業体験事業】 町内での一次産業体験を希望する方に、ニーズに合致した受入先を調整 一次産業受入人数: 0人(0日間)	
	令和5年度(予定)		令和6年度	
	【一次産業活動拠点施設活用】 町内で一次産業の体験をする際の活動拠点施設「志摩豊夢」の周知を実施  【一次産業体験事業】 町内での一次産業体験を希望する方に、ニーズに合致した受入先を調整		/	
	 <p style="text-align: center;">一次産業体験</p>		 <p style="text-align: center;">一次産業活動拠点施設</p>	

### 評価(Check)

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	体験者数		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	年間延べ190人		令和4年度末	年間延べ46人	23.0%
	目標値 (令和6年度末)	年間延べ200人				

#### ① 数値目標達成状況 現状では達成が難しい

達成状況の要因分析	体験者の移動が新型コロナウイルス感染症の影響により自粛傾向にあったこと。 また、農業体験受入れ農家での新型コロナウイルス感染症の影響も考慮し、大学等へのPR活動が行えなかった。
目標を見直す場合の考え方	—

② 事業成果

平成30年度から一次産業活動拠点施設の本格的な運営を開始し、新たな一次産業体験者を受け入れ新規就業者の獲得に繋げるため、関西圏の大学等へのPR活動を行っていたが、令和4年度においても新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、体験事業に影響がでた。

③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

農家等と連携して体験者の受け入れ体制を整えるとともに、コロナ禍以前に行っていた大学等へのPR活動を再開する。また、体験の受入先や新規就農に対する支援など、さまざまな情報を広く発信する。

④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

関係人口や交流人口の拡大にも繋がる事業であり、農家等と連携して農業体験の受け入れ体制を強化するとともに、大学等にPRして多くの体験参加者を集めていく必要がある

外部評価の結果

意見等なし

## 第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	3-⑥	課名	社会教育課・商工観光課
------	-----	----	-------------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	本町の特性を活かした体験・交流の充実		
戦略事業名	⑥スポーツ・教育合宿推進事業		
予算事業名	(臨時)総合運動公園管理運営事業		
令和4年度実績額	39,029,650円	令和5年度予算額(6月補正後)	125,258,000円

事業の概要(実績)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	スポーツ・文化体験交流合宿施設の基本設計を行う業者を決定するため、指名型プロポーサル業者選定委員会を開催し、指名した8社のうち参加表明のあった4社から技術提案書の提出及びヒアリングを行った。選定委員会の審査の結果、最優秀者「ジオグラフィック・デザイン・ラボ(大阪市)」と基本設計契約を締結し、合宿施設の基本的方針等について設計を行った。	基本設計に基づき、建設予定地の測量、実施設計(地盤調査含む)を行った。実施設計では、合宿旅行取扱業者や京阪神の大学や高校にヒアリングを行い、繁忙期以外での合宿利用ができる施設のありかたを検討し、設計に反映させた。	資材価格や労務費の高騰により当初予定価格を超過したため、財源確保を含め設計見直しを検討した。
	令和5年度(予定)	令和6年度	
	新規財源確保が見込めることから、その条件に適合する施設基本設計を行う。	特になし	

### 評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	合宿所利用者数		⇒	現 状		KPI達成率(%)
	基準値 (平成30年度)	年間延べ5,592人		令和4年度末	年間延べ3,878人	48.5%
	目標値 (令和6年度末)	年間延べ8,000人				

#### ① 数値目標達成状況 現状では達成が難しい

達成状況の要因分析	新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者の多数を占める近畿圏からのスポーツ合宿利用が控えられる状況にあったが、徐々に状況が改善していることから目標値は維持したい。
目標を見直す場合の考え方	—

## ② 事業成果

宿泊体験や食事の提供を通して、本町の自然環境や町内産の食材などをPRすることができた。新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、スポーツ大会の中止や活動自粛が相次いだが、スポーツロッジ栄光の利用者は前年度よりも大幅に増加(1,109人→3,878人)したことから、今後のスポーツ・教育合宿利用増に期待したい。

## ③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

部活動やサークル活動を行う団体では、コロナ禍にあっても定期的に合宿や大きな大会を事業計画に盛り込んでおり、潜在的な需要はあると考えられる。そのような中、学校等からは、感染防止対策が徹底されており、安心・安全な施設が求められている。引き続き、受入れ施設での感染防止対策を徹底し、合宿中の安全確保を図りながら、ウイズコロナやアフターコロナの利用者獲得に向けた周知に努める。

## ④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

スポーツロッジ栄光の利用者が前年度よりも大幅に増加するなど、利用者は回復基調にある。主な利用者である学校等の団体は、新型コロナウイルス感染防止対策等がなされた安全な施設を求めており、感染防止対策を徹底した上で、安心・安全な施設であることを広くアピールし、需要を取り込んでいくことが重要

## 外部評価の結果

意見等なし

## 第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	3-⑥	課 名	社会教育課・商工観光課
------	-----	-----	-------------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	本町の特性を活かした体験・交流の充実		
戦略事業名	⑥スポーツ・教育合宿推進事業		
予算事業名	観光振興対策事業(合宿補助)		
令和4年度実績額	3,375,500円	令和5年度予算額(6月補正後)	4,650,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業の概要(実績)	<p>将来の観光リピーターとなりうる若年層の誘致を進めるため、高等学校や大学等と連携して合宿の誘致を図るとともに、本町で行われる学生合宿に対して補助を行った(1団体1回につき20万円を限度)。</p> <p>1. 補助内容</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円/人泊 地域交流費:250円/人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円/人泊</p> <p>2. 利用実績</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円×493人泊 地域交流費:250円×93人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円×78人泊</p>	<p>将来の観光リピーターとなりうる若年層の誘致を進めるため、高等学校や大学等と連携して合宿の誘致を図るとともに、本町で行われる学生合宿に対して補助を行った(1団体1回につき20万円を限度)。</p> <p>1. 補助内容</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円/人泊 地域交流費:250円/人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円/人泊</p> <p>2. 利用実績</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円×267人泊 地域交流費:250円×54人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円×217人泊</p>	<p>将来の観光リピーターとなりうる若年層の誘致を進めるため、高等学校や大学等と連携して合宿の誘致を図るとともに、本町で行われる学生合宿に対して補助を行った(1団体1回につき20万円を限度)。</p> <p>1. 補助内容</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円/人泊 地域交流費:250円/人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円/人泊</p> <p>2. 利用実績</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円×2,521人泊 地域交流費:250円×0人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円×516人泊</p>
	令和5年度(予定)	令和6年度	
	<p>引き続き、将来の観光リピーターとなりうる若年層の誘致を進めるため、高等学校や大学等と連携して合宿の誘致を図るとともに、本町で行われる学生合宿に対して補助を行う。</p> <p>1. 補助内容</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円/人泊、地域交流費:250円/人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円/人泊</p> <p>2. 予算枠</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円×3,000人泊 地域交流費:250円×200人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円×100人泊</p>	/	



### 評 価 (Check)

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	合宿所利用者数 or 事業利用者数		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	年間延べ4,084人泊		令和4年度末	年間延べ 3,037 人泊	
	目標値 (令和6年度末)	年間延べ5,500人泊				

① 数値目標達成状況 現状では達成が難しい

達成状況の要因分析	新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなり、令和4年度においては、数値目標である年間の事業利用者数が、前年度実績の484人泊から大きく増加し、3,037人泊となった。
目標を見直す場合の考え方	—

## ② 事業成果

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなり、前年度より2,553人泊増加の3,037人泊となり、宿泊体験や食事の提供を通して、本町の自然環境や町内産の食材などをPRすることができた。

## ③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

部活動やサークル活動を行う団体では、コロナ禍にあっても定期的に合宿や大きな大会を事業計画に盛り込んでおり、潜在的な需要はあると考えられる。  
今後は、施設管理者と連携して、感染症対策を徹底し、利用者に安心・安全の合宿環境を提供する。  
また、令和4年度実績の内訳は、県内516人泊、県外2,521人で、県外はすべて関西地域(京都・大阪・兵庫・和歌山)であったが、今後、東海・中国四国地域からの利用拡大に期待したい。

## ④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

・新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなり、利用者が増加している。需要はもっとあると考えられ、新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底した上で、安心・安全な施設であることを広くアピールしていくことが重要  
・施設利用者が関西地域の団体に集中しているため、その他の地域にも施設をPRしていく必要がある。

## 外部評価の結果

意見等なし

## 第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	3-⑦	課名	住民窓口課
------	-----	----	-------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	本町の特性を活かした体験・交流の充実		
戦略事業名	⑦若者出会い交流応援事業		
予算事業名	若者出会い交流応援事業		
令和4年度実績額	106,298円	令和5年度予算額(6月補正後)	895,000円

令和2年度	令和3年度	令和4年度
<p>出会い交流事業の一環として 頭巾山青少年旅行村にオープンしたグランドゴルフ場で、男女グループに分かれて競技を行った後、よざえもんcaféで食事をしながら交流を図った。(男性8名・女性8名参加)</p> <p>民間で開催するカップリング交流パーティーの開催にあたり、事業費の一部を補助(1回目:男性8名・女性8名参加)(2回目:男性9名・女性9名参加)</p>	<p>結婚セミナーを実施した後、人気芸人が代表選手となって話題となったニュースポーツ(モルック)を実施した。その後、メンバーを入れ替えフリートークを行い交流を図った。(男性7名・女性4名参加)</p> <p>民間での開催はR3年度はなかった。</p>	<p>里山文化交流センターでポッチャを実施した。その後、1対1のトークタイムやビンゴゲーム、ランチで交流を図った。(男性5名・女性5名参加)</p> <p>民間での開催はR4年度はなかった。</p>

事業の概要(実績)

令和5年度(予定)	
<p>軽スポーツイベントを実施し、若者同士の交流・出会いを促進する。</p> <p>未婚の男女の出会いと交流の機会の提供を図るためのイベントを実施する。 1回目:レインボーラインでの散策とランチで交流を図る。 2回目:青戸ベイサイドヒルズでのBBQとゲームで交流を図る。</p> <p>民間で開催するカップリング交流会に対し、開催費の一部を助成する。</p>	



### 評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	参加者数			現 状		KPI達成率(%)	
	基準値(平成30年度)	累計127人		⇒	令和4年度末		累計217人
	目標値(令和6年度末)	累計340人					
						63.8%	

① 数値目標達成状況 現状では達成が難しい

**達成状況の要因分析**

行政主体の事業と、民間団体等による魅力的な企画立案事業を組合せ取り組んできたが、参加人数が伸び悩んだことが大きな要因であると考えられる。令和2年度は補助金申請団体があったが、行政主体の事業においてコロナ感染拡大防止の観点から、当初2回開催予定のイベントが1回しか開催することができなかったため、事業規模が縮小してしまった。  
 今後は、事業に参加したくなるような魅力的な企画に努めるとともに、補助金申請団体のさらなる掘り起こしに取り組み実績確保に努めていく。

**目標を見直す場合の考え方**

-

**② 事業成果**

里山文化交流センターでポッチャを実施した。その後、1対1のトークタイムやビンゴゲーム、ランチでの交流を図った。

**③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針**

<p>ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など</p>	<p>行政主体事業のみでは、参加対象や交流場所が町内等狭域に限定されてしまうことで、どうしても敬遠されがちな傾向となるため、より広域的な男女の出会いの場を提供していただく観点から、民間団体への補助事業を新たに創設した。 また、平成28年度に「おい町若者出会い・交流応援事業実施要綱」を策定し、1事業につき30万円を上限額として、若者の出会いの場を積極的に創出するイベントの実施団体に対する補助事業を実施。 令和2年度2団体の実績あり。</p>
---	---

**④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)**

- ・新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなったことで参加を検討する方の増加が期待できるため、参加したくなるような企画を用意するなどして、実際の参加につなげていく必要がある。
- ・民間による開催を促進するため、制度の周知を図っていく必要がある。

**外部評価の結果**

近隣市町と連携しながら一緒にやっているとさらに交流の場が広がっていくと思うし、少子化にも少しは歯止めがかかるのではないかと思います。

## 第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

<b>整理番号</b>	3-⑧	<b>課名</b>	まちづくり課
-------------	-----	-----------	--------

<b>戦略分類</b>	3. 若者活力		
<b>取組の方向</b>	特色ある地域づくりの推進		
<b>戦略事業名</b>	⑧まちづくり団体・集落ぐるみチャレンジ応援事業		
<b>予算事業名</b>	まちづくり団体支援事業		
<b>令和4年度実績額</b>	1,453,895円	<b>令和5年度予算額(6月補正後)</b>	2,502,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
<b>事業の概要(実績)</b>	<p>平成29年度から本格的なまちづくり活動に繋げるための入り口として、①「まちづくりチャレンジ事業」を制度化。</p> <p>平成23年度にスタートした②「元気なまちづくり支援事業」については、既存団体の支援が終わり次第廃止することが決定しているが、令和2年度から新たに③「まちづくり支援採択事業」を制度化し、「元気なまちづくり支援事業」からの移行も可能とした。</p> <p><b>【実績】</b>                      まちづくりチャレンジ…1団体(新規)                      まちづくり支援採択…1団体(元気なまちづくり支援事業より移行)                      ※元気なまちづくり支援事業を活用している4団体は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、活動を中止した。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、一部の団体の活動が中止となったが、ウィズコロナに対応して活動内容を変更するなど、事業実施団体のなかで創意工夫がみられた。</p> <p><b>【実績 事業実施団体数(採択数)】</b></p> <p>①元気なまちづくり支援事業…4団体(4団体)                      ②まちづくりチャレンジ事業…1団体(2団体)                      ③まちづくり支援採択事業…1団体(4団体)</p>	<p>住民が主体的となり創意工夫を凝らしたまちづくりにチャレンジする団体に対し、各補助制度において、団体活動の支援を行った。</p> <p><b>【実績事業実施団体数(採択数)】</b></p> <p>①元気なまちづくり支援事業…3団体(4団体)                      ②まちづくりチャレンジ事業…3団体(3団体)                      ③まちづくり支援採択事業…2団体(2団体)</p>
		<b>令和5年度(予定)</b>	<b>令和6年度</b>
	<p>住民が主体的となり創意工夫を凝らしたまちづくりにチャレンジする団体を下記の補助制度にて積極的に支援する。</p> <p><b>【R5実施予定団体数/予算】</b></p> <p>①元気なまちづくり支援事業 3団体/700千円                      ②まちづくりチャレンジ事業 3団体/300千円                      ③まちづくり支援採択事業 5団体/1,500千円</p>		/
			
	<p>おいCraft Garden (まちづくり支援採択事業)</p> <p>佐分利・歴史文化を学ぶ会 (元気なまちづくり支援事業)</p> <p>うみんぴあSEESEAPARK                      ハワイアンコンサート (まちづくりチャレンジ事業)</p>		

### 評 価 (Check)

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	活動団体		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	累計10団体		令和4年度末	累計15団体	100%
	目標値 (令和6年度末)	累計15団体				
① 数値目標達成状況					達成	

<b>達成状況の要因分析</b>	<p>これまでに意欲のある団体が積極的に制度を利用できるよう、補助事業の見直しを行いながら周知を図ってきたことから、団体活動数はKPIの達成に向け順調に増加しており、令和4年度はまちづくりチャレンジ事業を活用して、新たに3件のまちづくり団体の支援を行ったことで、地域の活性化に寄与するとともに、累計数としてKPIを達成することができた。</p>
<b>目標を見直す場合の考え方</b>	-

## ② 事業成果

まちづくり団体支援事業補助金は、活動人口、交流人口、定住人口に活性化を目的とした町民主体のまちづくり活動に対する支援制度である。現時点で3つの補助制度を設けているが、これまでに補助制度自体の見直しも行いつつ、住民がよりチャレンジしやすい環境を醸成してきた。  
令和4年度は、合計8団体が活動を実施し、町民活動の活性化に寄与することができている。

## ③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

これまでに意欲のある団体が積極的に制度を利用できるよう、補助事業の見直しを行いながら制度の周知を図ってきたことから、現時点でKPIを達成している状況ではあるが、支援を行っている団体が持続的かつ将来的には自走できるような団体となるよう、まちづくり活動に取り組みやすい町全体の気運を醸成するとともに、金銭的な部分以外においてもサポートを行っていく。

## ④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

事業のPRや状況に応じた制度の見直しを図った結果、KPIを達成した。支援を行っている団体が補助終了後も自立的・持続的にまちづくり活動に取り組んでいただけるように、活動を継続する動機付け等を行っていくことが重要

## 外部評価の結果

意見等なし

## 第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	3-⑧	課名	まちづくり課
------	-----	----	--------

戦略分類	3. 若者活力
取組の方向	特色ある地域づくりの推進
戦略事業名	⑧まちづくり団体・集落ぐるみチャレンジ応援事業
予算事業名	おい町集落ぐるみ町民指標活動支援事業(チャレンジ事業)

令和4年度実績額	37,450,591円	令和5年度予算額(6月補正後)	38,228,000円
----------	-------------	-----------------	-------------

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
事業の概要(実績)	<p><b>【概要】</b> 第2次おい町総合計画に掲げる、3つのプロジェクト(活動人口活性化、交流人口活性化、定住人口活性化)実現に向けた集落の取組みを支援。上限20万円を助成例: 景観・環境整備、若者によるまちづくり、空き家の利活用、町外の人との交流など</p> <p><b>【実績】1件</b> ①野尻区芝桜植栽運動と情報発信のためのオリジナルカレンダーの作成(野尻区)</p>	<p><b>【概要】</b> 第2次おい町総合計画に掲げる、3つのプロジェクト(活動人口活性化、交流人口活性化、定住人口活性化)実現に向けた集落の取組みを支援。上限20万円を助成例: 景観・環境整備、若者によるまちづくり、空き家の利活用、町外の人との交流など</p> <p><b>【実績】3件</b> ①野尻区入口休耕田を積極的に利用したコスモスの栽培(野尻区) ②虫送り・松明行事映像記録活動(岡田区) ③バスステーション周辺景観整備事業(河村区)</p>	<p><b>【概要】</b> 第2次おい町総合計画に掲げる、3つのプロジェクト(活動人口活性化、交流人口活性化、定住人口活性化)実現に向けた集落の取組みを支援。上限20万円を助成例: 景観・環境整備、若者によるまちづくり、空き家の利活用、町外の人との交流など</p> <p><b>【実績】0件</b> 区長会でも広く案内し参加を呼び掛けたが、残念ながら実績無しとなった</p>	
	令和5年度(予定)	令和6年度		
	山田区 しだれ桜鑑賞会とチューリップの植え付け作業		/	
	 <p style="text-align: center;">野尻区: コスモス栽培 (R3)</p>		<p style="text-align: center;">岡田区: DVD制作 (R3)</p>  <p style="text-align: center;">河村区: 景観整備 (R3)</p> 	

### 評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	チャレンジ件数			現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)	累計13件		令和4年度末	累計18件	
	目標値(令和6年度末)	累計35件	⇒			51.4%

① 数値目標達成状況		現状では達成が難しい
達成状況の要因分析	新型コロナウイルス感染症や世界情勢などの影響により、参加集落が落ち込んでいると考えられる。R4年度ではなかなか終息の兆しが見えなかった点も考えられる。	
目標を見直す場合の考え方	-	

## ② 事業成果

区長会でも広く案内を呼び掛けたが、新型コロナウイルス感染症の流行や世界情勢の影響などにより、実績0件となったと考えられる。

## ③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

過去実績から、幅広い世代が参加しやすいような活動や区民の連帯感醸成に繋がるような活動を考える必要がある。また、環境美化や景観維持作業の継続及び次世代への活動継承も必要であると考えられる。

## ④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

- ・町の活性化につながる重要な取り組みであるため、各区に広く応募を呼びかけていく必要がある。
- ・各区が申し込みしやすい募集方法等を検討するとともに、これまでチャレンジ事業に参加したことがない区に対して積極的に応募を呼び掛けていくことが重要

## 外部評価の結果

(委員)令和4年度は応募地区がゼロだったということで、これまで事業に参加したことがない区に対して応募を呼び掛けていくなどしているが、今年5月の区長会でこの事業についての説明はなかった。区長会で事業について具体的に説明すべき。

⇒毎年12月に行っている町と各区長との意見交換会の場でこの事業を案内しているが、そこから間が空いて、年度末に応募を受け付けるスケジュールになっている。役員が1月に交代する地区が多い中、前の区長から話を聞いていなければ応募することが難しいと思うので、募集時期等、募集のあり方の見直しを検討していきたい。

(委員)12月に説明をされても、地区役員は冬場は降雪対応に追われがちで来年度の実施に向けた準備をするのはなかなか難しい。また、区長間で引継ぎがなされておらず、事業自体知らない区が多いと思う。必要な事業だと思うのでぜひ工夫してほしい。